明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一同二日發行

家庭雜誌

第九號

明治三十六年二月二日發行

酒に對する僕の所存……一
家庭革新演說會傍聽記……四
時間上の惡習慣……渡邊子爵の演說
下田歌子女史の演說振……家庭の立憲的組織
家庭遊戲……一二
がる、がり……一五
アングロサクソン民族の敎育……一六
日本の子供……一六
戰の物語（詩）……一七
下婢問題……一八
カアサンのお話材料……二三
花と家庭（三）……二七
細君案の朝寢矯正策……三〇
家庭文庫……三一
「赤き十字架」「少年」「歐米家庭德育佳話」
「遠航紀念帖」「大日本軍隊畫帖」
編輯机上より……三二

由分社

東京市京橋區新湊町一丁目十七番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●本社取次書籍目録

本社に於て取次販賣を爲す書籍は、本誌の讀者諸君に限り、特に**定價の一割引**にて御求に應ずる事と致します。但し郵券代用にて御送金は御斷致す

▲家庭の新風味（堺枯川著） 全六冊合本、定價一圓、郵税八錢。

▲第一冊、家庭の組織（結婚論、夫婦論、家族論。附錄、春風村舍の記）▲第二冊、家庭の事務（秘書官として、大藏大臣として、内務大臣として。附錄、由分子禁烟の歷史）▲第三冊、家庭の文學（新聞雜誌、書籍、日記、手紙、和歌、俳諧）▲第四冊、家庭の親愛（夫婦の間、親子の間、家族の間。附錄、毛皮裏の外套、愛犬罴）▲第五冊、家庭の和樂（食卓、來客、宴會、散歩及出遊、遊戯、小供及老人、家畜及庭園。附錄、當世紳士、藤室牧師の家庭）▲第六冊、家庭の教育（妻の教育、家族の教育、子の教育。附錄、極樂寺谷の晝飯、顔を美しくする法、補遺）

▲家庭夜話（堺枯川編輯） 全三冊合本、定價一圓、郵税十錢。各冊三十五錢、郵税四錢。

▲第一冊、子孫繁昌の話（堺枯川譯述、原作は佛國最近の小說大家ゾラの理想を發揮したるフルートフルチス）▲第二冊、質素儉約の話（加藤眠柳譯述、原作は有名なる英國の文人ゴールドスミスの第一の傑作たるヴイカ、オブ、ヱーキフイルド）▲第三冊、仁慈博愛の話（志津野又郎譯述、原作は米國ストー夫人が無限の同情を注ぎたる奴隷談、アンクル、トムス、ケビン）

▲我家の犬猫（動物虐待防止會叢書第一篇） 定價八錢、郵税二錢。（此書に限り郵券九錢にて御注文に應ず）

▲枯川隨筆（家庭文學第一篇） 定價廿五錢、郵税二錢。

▲言文一致普通文（堺枯川著） 定價廿五錢、郵税二錢。

右以外の書籍に對しては取次を御斷り致す旨前號に廣告して置きましたが、それにも係はらず猶御注文あるに依り、止むを得ず、今般は何の書籍にても取次することと致しました然し右以外の書籍に對しては**割引なし**

●本誌定價及廣告料

▲定價　一冊六錢、半年分前金卅二錢、一年分同六十錢、郵税なし。郵券代用は一割増（但し五厘切手の事）

▲廣告料　特別一頁七圓、普通一頁五圓。

東京市京橋區新湊町一丁目十七番地

發行所　**由分社**

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

明治三十六年十二月一日印刷
明治三十六年十二月二日發行

發行兼編輯人　東京府豊多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村渚山

印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

酒に對する僕の所存

田川大吉郎

前號の本誌には、放縱の辯と題する珍らしい文字が有つたので、これはと思つて注意して讀みますと、枯川君其人の風貌主張が歴々として現はれ、かねぐ\御達者なる君の筆力を一層歎美いたしましたが、其中に酒を論じて小生の家庭に及ばれ、

田川君其外多くの嚴格なる人の家庭には酒は、恐るべき毒物として斥けられてあるらしく見受けるが、

と、御判斷に相成りましたる一條は、枯川君の申さるゝ其外の方々に就ては知らず、小生の一家、特に小生一人に取つては、少しく意趣違ゐで有ります。

元來小生は酒を飲みません、其れは御説の通りで有りますが、然し乍ら小生が其れを飲まない理由は、酒を恐るべき毒物と思ふからで無くして、

第一には小生は成るべく慾を寡くしたいと思ふて居る、寡欲の生涯を送りたいと思ふて居る、例へて言へば、三菱の如き日本第一の金持に爲つて、且つ伊藤サンの如き日本第一の勢力家に爲つて、それで尚足らずに、其細君には花の如き美貌の婦人を持ち、其小供には玉の如き麗質の後嗣を得たいと云ふ様なのが、概して人皆の希望で有ります所、小生は其れ等の希望を、天から欲張り過ぎた望みと思つて居る、そこで自制は小生の修身の第一要領で有る、そういふ所から、或は慰み半分に寄席に往かるゝ人が有るのに、小生は其れに往かうとしない、或は娯樂のため演劇に往き、又交際のため待合に往かるゝと云ふのに、小生は一もそういふ所に往かうとしない、そんな風にして、自ら慰め、若くば樂む所以を、始終外界外物に求めやうとすれ

ばどこ迄往つても際限が無く、日々其れに逐はれて、惟日も足らなく爲る、馬鹿々々しいことで有ると思ふの心は、既に食を得た、其上に間食をする必要は無い、既に間食を得た、其上に酒を飲む必要は無い、間食に甘い物を食つて、更に又食事に酒を飲むと云ふ樣なことは、餘りに慾望が多過ぎて、且其慾望を恣まゝにし過ぎる、其恣まゝといふことが可くない、制した方がいいと思ふのが第一義で、即ち酒を用ゐまいと考へました。

それから第二には、小生は酒の効用を知らない。それが毒に爲るものか、又薬に爲るものか、一向それを知らない。それが自然に酒を輕蔑にする氣に爲つて、ナーニ酒を飲むつて、それは無駄だよ。君、一體君達が酒を飲むのは醉ふためだらう。醉ふて以て胸中のムシャクシャを忘れ樣とするので有らう。君に勸めるが子。第一に其ムシャクシャを胸の中に無い樣にし玉へ、それは、子、何も六かしいことは無いよ。誓つて負心の事を爲なければ其れで可いのだ。そうすれば、胸の

中が清々しく爲る、いつでも清々してムシャクシャした感じが滯らなくなる。それが一番だ、萬一それが出來ないとしても、酒で以てそれを忘れ樣とするのは下さらない、先づ氣を降して内に省みて忘れる。天然の大景に觸れて忘れる。書物を讀んで忘れる。兒女と親しんで忘れる。繪を見て忘れる。歌を咏んで忘れる。端舟を漕いで忘れる。相撲を取つて忘れる。馳けッ競をして忘れる。歩いて忘れる。眠つて忘れる。宗祖の事跡をたづねて忘れる。忘れる方法はいくらも有る。有り餘る程多く有るのに、それでも皆足らないとして、更に酒を求め樣といふのは、第一には欲が多過ぎると云ふものだが、第二は餘りに酒の効能を信じ過ぎるよ。酒はそれ程効能は無い筈の物だよ。酒が何だい。彼んな物が無くッたッて、人間は其思想を回轉し、若くば其交情を疏通し親密にする方法は幾何も有るよ。酒で以て漸く其れを回轉し又疏通し樣と云ふのは、淡泊過ぎて餘ンまり思慮が無さ過ぎるといふのが、第二段の理由で有ります。即ちこれは、酒を甚だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輕蔑して、何んにも爲らないと觀ずるから起るので、決して酒を畏ろしい物などと思ふからで有りません。

第三には去り乍ら小生も亦酒を畏ろしい毒が有る物かと思はぬことが無いでも有りません。其れは偶々酒飲みの先生が小生の宅に枉臨の時に、どうです、酒を献じませうか、これでも酒の二合や三合位は持ち合せが有りませうよと云ふと、其酒飲み先生が、イ、エ要りません、早速御飯を頂戴しませうと云はるゝのが、十人が十人其常で、附け加へて、どうも酒は戴かないに限ります。酒を戴きますと、どんな堅固な方でも、いくらか心がお亂れに爲る樣です。結句、私等も酒を召上がらない方を、一番お堅いお方だと思つて、安心してお取引を願ひます、と、よく／＼酒を惡いものゝ樣に言はれるから、小生も其れを聞いて、實驗のお言葉に間違ゐは有るまい。そうして見れば、酒は惡いものか知らんと思ふ樣にも爲りましたので、小生がいくらか酒を畏ろしい物の樣に感じますのは、是れは皆酒飲み先生から敎へられた結果で有ります。若し酒飲み先生から敎へられたことが無ければ、小生は今日まで決して此の如き感じを微塵だも有たなかつたで有りませう。

此の如き理由で有りますから、どうか其樣に御承知を願ひます。小生は決して酒を畏ろしい物だと思つて居りません。却つて碌でも無い、役に立たぬ、生體の知れぬものだと思つて居ります。即ち小生の酒を飲まぬのは、概して言へば、小生が酒を輕蔑して居るから起る自然の結果で有ります。世の中には、酒に醉はなくとも、醉ふべきものが、澤山に有るで有りませう。

△深呼吸

これは吾々の健康には極めて大切なるもの、普通の呼吸では肺中の空氣の通路をみたすことの出來ないところができ、それからつい病氣を引きおこすもととなるものでございます。

深呼吸には、肩を十分後に引き、胸を張り、徐々（細く永く）鼻口より吸入し、暫く其まゝに堪え、それから鼻口よりはくのでございます。寒さのときなどに之を三四回行ふときは全身しつかり溫まるやうにおぼへます。

諸君毎朝夕これを行ふて、十分肺を擴張する習慣をつけ健全無病になられんことを希望します。（浩南）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

演說會傍聽記

去月の十四日は菊日和の麗かな天氣であつた。此日神田の靑年會館では、家庭革新大演說會と云ふのが開催された、時節柄、多少文字のある人は、皆な對露問題の演說や、新聞社說なぞに耳目を疲らせ居るので、じみで眞面目な家庭など云ふ問題の下には、到底先を爭つて來るやうな餘裕がなからうと思つて居たが、往つて見るといや意外の景氣、婦人にまれ、男子にまれ、其處へ集つて來る程の人、何處やらに着實の風があり、特に其目の內には新智識新趣味に渴へて居ると云つたやうな色が、溢れて見えるのであつた。それに、自分が特さら嬉しく感じたのは、當日會館の柵外柵內にあつて、來聽者に屬する馬車乃至人力車を只の一輛も見得なかつた事である。かの慈善音樂會なるものが、會の性質上とは云へ、得て貴族的に流れ勝ちである會合に比べて、此會は如何に意味深く奧床しく見えたであらう。聽衆は誰一人として儀式的に來たものはなかつた。いや〳〵乍ら來たものもなければ虛榮心を抱いて華麗な馬車を橫着けにしたと云ふやうな者は、固よりあらう筈がない。

丁度一時前になつて、來聽者の足音が玄關口に途絕え勝ちとなつた。向つて左側一列が婦人席で、其他の四列は悉く男子に依て占領されて居たが、見渡した處、靑年仲間の聽衆がなか〳〵多く、所謂家庭の主人と見做されるべき人達と、略ぼ其數に於て相半ばして居る位であつた。自分は何となく此等の靑年仲間が賴母しい人々であるかのやうに思はれると同時に、少なくとも彼等は東洋的豪傑と云ふ單純な思想から離れ、新しい趣味の上に合理的な家庭を築かうとする、未來の候補者であるに相違ないと鑑定した。

開會の奏樂の響いたのは、それから殆んど三十分斗りも經つてからであつた。此間には各所々々で催促の拍手が上り、中にはステッキで以て床上を鳴らしなどする人も見受けられたが、之は聽衆の方から云へば實際無理のない事であらうし、又會其物の事情を察し

て見るも、强ちに無理と斗り責める譯には行かないのである。是迄この時間と云ふ事に就ては、いろ〱と改良方法を講じた人々が多いのであるが、今日に至つてもまだ惡習慣は容易に脫却しさうにないらしい。尤も當日の來聽者中にはこの新觀念を持て、定時間厲行の利益と趣味とを辨へて居る人が多くあつたらうけれど、開會時限過ぎてから這入つて來る遲刻者に依て、折角の時間厲行者が同志打に壞されて了つた。

會の方では一時と云ふ披露をして置き乍ら、當日は二時前にならなければ開會しなかつた。すべてかゝる塲合には辯士等などの遲刻も原因しやうなれど、今日迄の經驗から見ると、何時も司會者其人が豫め披露に加減をして置くらしい。實際は二時に開くべき晩餐會を、披露には一時と記して、來集者を釣ると云ふやうなのが多くの會の常手段であると思ふ。勿論、此不始末の罪は、司會者、聽集者双方の頭に割り付けられるもので、一歩進んで云へば在來の惡習慣が祟りとなるところ、風俗改良に熱心な先生斗りでなく、今後內には家庭の人であり、外には社會の人であらうと云ふ方々は、此等の微細な點にも注意して、飽く迄のこの良習慣の普及を力めるのが又一つの責務であらうと考へる。

奏樂が了つて、まづその初頭に顯はれたのが渡邊子爵であつた。演題は『家庭革新の目的に就て』と云つて、氏は氏が經世家の立脚地より、教育の必要と、その教育の一大要素は主に家庭の間にあると云ふ事を論じ、それから、家庭改良の上に感ずる困難と、一旦その困難を切拔けた家庭の價値の偉大なる事などを四十分斗りの間に述べられた。成程一わたり拜聽した所、演說の主旨は議論として誠に健全に思はれたけれども、其代りさしたる特點特色目立つた箇所が認められなかつたので、こゝには紹介せずに置く。

第二席には下田歌子女史、例の色の白いふつくりと、肉付の豊かな頰のあたりに、嫣然たる笑を浮べ、黑の紋付の被布に白襟の淸楚なるが際立つて見えた。演說の口調は極めて明晰で、そして聲に艶があり、一句々

々に勢よく語尾を上げて、後へ持て來る言葉の冒頭を輕々と受けるのが女史の癖で、又特色である。

女史が演壇に立つと、勿体振らず樣子振らず、洒々落々として『……差迫つた用事が後ろに待つて居るので、長い話は出來ません、また考へる時間もなかつたしゝますから、今日は矢張『女子教育の前途』と題して、何時も申上げるのを洗濯する事に致しませう。』と云つたやうな意味で、才氣に溢れた口元が動いたかと思ふと、さあ大變！女史の快舌は風に向つた矢車の如く回轉して、露程の淀み、澁りがないのである。

『頭腦が好いのだねえ。』と、隣席の一人が此時頻りとその舌端に魅せられて居たが、實際隣人がさう感じたのも無理はない。少し頭腦の遲鈍な者などは、其聲と其調とが、自然に音樂的の發展をして居る爲に、却て美感神經を惹起し、頓て女史が其姿を壇下に見せた時分には、何を聞いたものやら、殆んど夢のやうな心地を覺えて居た向もあつたであらう。これ決して誇張の言ではない。

演說は主題が主題丈に、直接『家庭雜誌』に關係はなく、從て全然これを聽書きすべき必要を認めなかつた。併し流石は教育上に於ける多年の研鑽經營共に空しからず、說く所の其論旨、皆な明達、流暢な形式以外に、一として謹聽を價せないものはないのである。まづ、近來の女子教育の勃興と云ふ內には、一種浮華なる流行的勢力の潜在して居る事を指摘し、これに對する世の父兄、乃至女學生自身の覺悟自覺の必須なる事を縷述した。それから、當代の教育の餘りに直譯的である事に論及しては、西洋の文物を其儘輸入した當時の、實際止むを得なかつた事などを辨明し、更に德育に於ける苦心譚から、宗教の話、それには佛國、女學校の例などを引いて、一々細かに語られた。で、斯樣に前提を方々へ散らけ廻した演說の結論として、女子教育の前途と云ふ處に初めて注意を惹起させ、女史が今日の見解と理想との幾分を開陳して降壇せられたのであつた。

試みにその演說中の二三節を、娘を持つた父兄や母

親、並びに未來の細君たるべき女學生諸君に紹介して見やう。

「女子教育と云ふ事は近頃の流行です。「お隣りの何子さんが過日紫紺の帶を〆めて入らしつた。それでは妾もあの紫紺の帶を買ひませう。ねえ、母上さん買つて頂戴なねえ。」これを、そつくり學校の方へ應用して來て「お隣りの何子さんが何々學校へお這入りだつたから、妾もあの學校へ入學しなければならん。」どうしても流行ですねえ。これでは頓と教育する者の張合がない譯です。如何程骨を折つて教へても、丸で浮草同樣、根も何もあつたものではありません。だから御覽なさい。そのお隣りの何子さんが、事情があつて他の學校へでも轉じやうものなら、又直ぐにその方へ走つて行くでせう。「何子さんが變へたから妾も變へやう。」かうなつた日にはどうも仕樣が御座いますまい。』……『兎も角これからの女學生は胸に堅固な自覺がなければなりません。虚榮心の奴隸となつて、花を咲かせに小學校へ行くのではないのです。「自分はどうしたら一家の細君となり得るであらうか。どう云ふ風に學問したらば、親の責任を全うするやうになれるであらうか。」これですねえ。この覺悟がない以上は、學校も何もいつたものですか。』……『父兄の方々にも矢張近頃は此流行熱が盛んな樣子です。「隣りの娘は東京の女學校へ行つたから、宅のも負けずに遣らねばなるまい。」成程親として人情はさうでもありませうけれど、それでは餘り淺薄でせう。本當に勉强しやうと云ふ覺悟のない娘を、强いて東京へ上ぼした所で、結局は何の役にも立ちますまい。』

女史は最後に機敏な眸を男子の方に急轉して快辨の餘勢、それとなく時事問題に歩調を移し、『妾共は我國開闢以來曾てなき一大幸福の時機に逢着して居るので御座いませう。若し大になすあれば、だが意久地なく何も爲すなければ、これ方に不幸の絶頂です。世界の列國は我國の一擧手一投足に、目を見張つて環視して居る時でありますからねえ。』と語尾を上げて降壇した。登壇の時刻より五十餘分、其間一滴のお水も口にしな

かつたが、態度は微塵も亂れず、語調には愈々力あり、始終熱するが如くして而も迫らず、冷やかなるに似て而も一面温情の氣を、藏するが如き、思ふに聽者の滿足を買つた所以でもあつたらうか。

第三席即ち當演說會のしんがりを勤めた辨士は、今の東京市水道部長、田川大吉郎氏である。氏の演題は『立憲的家庭』と云ふのであるから、まづ當日の參聽者には第一の聽きもの。基督教徒を代表した家庭の意見をと云ふのが、定めし青年仲間を多く引寄せた原因であつたゞらう。氏の立憲家庭說は絕對的革新主義で、舊日本の家庭（實は現今の家庭にも）に勇敢なる挑戰を申込んだものである。

氏はまづ演壇に上ると、應揚に腕を組み、ずつと隅から隅迄聽衆の顏を見廻はして、輕々しくは口を切らない。これは敢て勿體を付けやうと云ふのではなくて徹頭徹尾眞面目な氏の精神が、自ら態度にもかう顯はれるのであらう。さて、氏の演說は巧妙で機智に富んで居る。一語一句に不必用な接續詞や何かは省いて、實際云はんと欲する意味丈を極めて鮮やかに云ひ顯はすのである。假令ば蠶が卵子を產付けるやうに、或は暗黑の空に煙火の輝くのが見ゆる如く、ぽつり〳〵一句と一句との間が非常に發揮りと區別してあつて、次の一瞬には何が出るか、其想像が聽者にはつかない。氏の演說は少し情味がないかとも思はれる代りに、思想の配列が調つて居るので、速記者などの書いたものを其儘に出版しても決して口語文の冗漫と不秩序とを見出す心配はないのである。これから氏の演說の紹介にかゝらう。

まづ氏は國家の立憲政體なるものゝ定義を述べて、專制政治と其趣を異にする理由を明かにし、『……かく我國では有難い立憲政體を奉戴して居る。然るに退いて其一分子である家庭の內情を覗ふ時には、依然として專制君主政治の行はれて居る事を發見するのである。』氏は續いてこの斷定に對する例證を擧げる爲めに、態と自分の家庭を持出して來た。

『私が諸君の面前で、包まず懺悔しませうなれば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲第一に私は日々の起居動作に時間の事が無制限である。私は夜更かしなどをした翌朝には九時十時と云ふ時刻迄床に離れない事がある。さうかと思ふと、又急に四時頃に跳起きて騒ぎだす事がある。就眠の時間も矢張其通り、自分の我儘一つで、幾時迄起きて居やうとそんな事には誰にも頓着して居らない。從つて食事の時間も同様の亂調になつて、一定の時間に食卓の用意をする事が臺所では出來ない。然るに、細君の方では此氣隨氣儘の專制君主に飽く迄も從順で、少しも自分一身の便宜の上に立つ事は出來ないのである。私が朝の起方が遲い時には、いくら細君や下女達の腹が空いて居ても、「旦那樣のお飯がまだ濟まぬ。」と云ふ理由で、箸に手を付けた事がない。又夜分の專制君主の歸宅が遲い時には、何時になつても臥床に入らず。やつと歸つて來た所が、その衣服をちやんとたゝみ、萬事萬端の世話を了つてからでなければ、就眠の自由を得る事が出來ぬ。……▲第二は私の平生が氣隨氣儘のやり放題である事です。……▲第三は食物の分量の定まらぬ事。一昨日三椀を食べたかと思ふと、今日は只の一椀、其翌日には急に五椀に劇進すると云ふやうな食べ方をして、其都度細君や下女に恐慌を來させる。……▲第四は私の言語の亂暴な事である。私は何時も細君に向つて「おい！」と呼んで、何事でも命令するが、細君の「あなた」に對して「奥樣！」とはどうしても口へ出て來ない。さうして、この專制君主は一寸した事にも、直ぐに怒り散す事に慣れて居て、どうかすると、細君の横面の一つもなぐり兼ねない見幕を見せる事がある。見幕を見せるのではない、實際心ではなぐらうと迄に思ひ込んで怒鳴のであるが、流石こゝ丈は裏長屋の主人と違ひ、握つた拳が上つた儘で引込ませる。併し、結果はかうでも其心はなぐつたのと同樣であらう。何と云ふ高慢無禮な私でせうか。……▲第六は衣服擧動である。私は始終衣服などを脫放しにして置くが、妻や小供が其樣な事をすれば、口を極めて其行儀を詰るのであります。そうして行儀作法と云ふ事を説法してやるのであります。又夏の暑い日などに、外か

ら歸つて來ると、私は一番に帯を取り、眞裸體になつて座敷の眞中を占領する。けれども、若し此樣なだらしのない爲體を、細君が私の前で見せたらどうでせう。私は決して容赦はしません。……以上は私の家庭に於ける日常の有樣ですが、これで居て私が一家の主人とは、實に太膽千萬な話であります。これが抑も不平等な人類の住ふ家でありませうか。樂しかるべき家庭と云ふ事が出來ませうか。』……『兎角日本人は口癖のやうに、女性の從順を稱へて、奴隷の如き生涯を以て滿足させやうとする。何たる不理な事であらう。一方は主人、旦那樣、他方は服從者。一方は我儘、他方は謹愼。一方は驕慢、他方は意久地なし。一方は鬼神、他方は土塊。何たる差別でありますか。』

氏の論鋒は此時廣く社會の人に對して向けられて居たのである。

『今日は如何なる時代です。今日の時代は有難い憲法の恩澤に浴して居ります。この憲法の特長は第一▲人の上に人を作らぬ事。第二▲法律に支配されても、君

主の意志には支配されぬ。第三▲國民の意志は即ち法律である。……然るに、この國家の最大要素たる家庭の內情は如何。主人と主婦とは對等の國民として家庭の憲法の下に統治されて居ますか。家庭憲法の必要は終に起らざるを得ないです。憲法とは主人と主婦との間に立てられた一個の約束で、一家を整頓し統治する上に於て缺くべからざる心棒である。先づ其約束の中には、就眠離床の時間、食事の時間を定める事。並びに出來るならば訪問に往來するの時間を一定する事。第二に動作を對等に戒める事。第三に、言語を同樣にする事。即ち主人からまづ其細君に丁寧な言葉を用ゐねばならぬ。第四に厄介は無闇に掛けぬ事。自分でやつた事は自分で始末をせねばならぬ。』……『勿論此結果は非常に在來の主人氣質に羈絆をもたらす事であらう。けれど、この羈絆を得てこそ、始めて家庭の眞の味が出るのである。』

氏が本論はこれで一段落を告げ、更に氏は特別に婦人席の方を一瞥して、

『私は特に婦人諸君、いや實は私の妻に向つて尙ほ數條の注文を申したい。▲第一、私の細君は無闇に泣く。一寸とした事があると直ぐにしく〳〵と泣き出すのであります。これは是非共考へて貰ひたい。成程涙は貴いに違いないが、さう安く泣かれては貴い涙の價値が皆無になりませう。▲第二、内職がして欲しい。一體私の細君は使ふ事ばかりを知つて、金を得る道を少しも知らぬ。即ち細君の役目を云つて見ると、主人が汗の油で得た金を、譯もなく使ひ散らす人に外ならぬ。今後の細君たるものは、今少し金の貴さを知る事が必要であります。▲第三、細君は自分で以て野菜物などを買ひに行くが好い。私の細君は少しも外へ出ない。從つて世間の事情に甚だ疎い。實際的の觀察力が頗る鈍い。例令て見れば、何處の八百屋にはかう云ふ野菜が出て居るが、價額が割合に高い。彼處の品物は品質が好い。この芋は何處產の物である。などと云ふ風に、自づと見聞が廣まつて來るのです。▲第四、私は召物の噂をする事を癈して欲しい。私の妻などが偶々誰かと話して居る樣子を覗ふと、十中八九は着物の批評である。これと云ふのも、他に話すべき材料がないからの事で、細君は此點に充分注意ありたい。▲第五、元氣な運動が肝腎です。折があれば外へ出て、極めて自由に快活な遊戲をしたり、遠足をしたりして、身體を練らねばならぬ。精神を開發させねばならぬ。私は細君と同道して、外へ行く事を厭ひはせぬが、どうも先天的に女は足弱で、到底歩調を共にする事が出來ぬ。それが爲に私は無理に足並を合はさうとすると、直に非常な疲勞を感じて來る。此點から云ふと、西洋の婦人は快活で速力も男子に劣らぬ。元氣な運動が何よりも必要であります云々。』

自分は殘念乍ら此邊で筆を止めねばならぬ。隨分冗漫に失して、却て興味を殺いだやうな嫌ひもないではないが、讀者諸君は此中から何等かの利益を得らるゝには相違なからうと思ふ。

家庭遊戯

近藤常三郎

家庭には何か其一家を賑しくたのしましむる運動遊戯の類がなくてはならぬ。食後の小憩又は夕方の閑暇の折などに、あどけなき小供の遊び戯むれる事の如何に面白きよ。獨り小供ばかりでなく父も母も共に交はり遊ぶときは、一層愉快の事であろー。恐らく人生中これほどたのしくうれしいことはなからうと思ふ。

元來小兒は其性質活潑なるもので、運動遊戯は彼等の生命である。仕事である。學問である。彼等はこれによりて强壯に發達し智識を得、心力を錬磨し行くものである。父母たるもの徒らに亂暴だなどゝいつて、叱りつけて之れを止むるのは甚よくない。さりとて、其なすがまゝにしてよいとはいはれぬ。よく其種類方法を考へ、身體精神にも利益あるものをすゝめ、術も害ありと認むるときは之を制止せねばならぬ。

運動遊戯は小供や若い者ばかりのなすべきものではない。男女老幼の別なく、それ〴〵適當のものを撰んで行ふべき筈のものである。暇がなく忙しいからといつて、終日仕事の中に埋れて、居るとは何たる事であろー。彼等の顔を見ると靑白く、手足は柔かに細く、眼光に力がな。從つて心氣沈鬱、僅の事にも怒り易く、小供等にあたるが常である。自分がこの篇を草したはこれ等の人々に讀ませたいのである。

一　お月さま

健吉『今晩はほんとうにいゝお月さま！』全吾『星さんも澤山にでゝ！』父子三人夕食後徐かに庭内を散歩してゐる。二人の子供はおもしろうたつてゐる。

『お月さまわかいな、いつも年をとらないで、くしのやうになつたり、鏡のやうになつたり、春夏秋冬、日本中を照らす、おつき様えらいな………』

全吾『お父樣今日學校で、おもしろい遊戯をならつたよ。』父『どんなんだ。』『あのね。あのね。みんなが手を引いて圓くなつて。』『うむそれで。』『お月さまわかいな。今のうたね、これだけうたふ間みんないつしよに右の手を額にあてゝ後へ反つてお月さまを見るの！』父『それから。』『いつも年をとらないで。兩手を前にだす掌を上にむけて、そして指で年をかぞへるのほんとによ。』『櫛のやうになつたり。まん中の方がひつこんでお母樣のお櫛ねあんなになる。』『鏡のやうになつたり。またもとのやうに圓うになる。これが鏡ですよ。』『春夏秋冬。手を拍つ四ッ』『うむ〳〵』『日本中をてーらす。兩手を前に出して（掌を内に對向して）頭の上にあげ後の方に回す』『なにむづかしく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない、面白いよ。」
この遊戯は七八人より以上何人でも多數がいゝ、兒童の動作的遊戯でなか〳〵面白い。歌は兒童のつねによくうたつてゐるものでして、もー一つございます動作は大抵まへと似ております。
お月さまえーらいな。右の手を額にあて右方を望み見る。
お日さまの兄弟で、左の手を額に左の方を望み見る。
三日月になつたり、まんまるになつたり、前と同じ。
春夏秋冬、拍手の代りに、足蹈四回する。
日本中をてーらす。前と同じこと。

二 狐つり

「お父さん、お母さんや、姉さんのくるまで、何ぞおもしろい遊戯をしませう。」「僕はほんとーに遊戯がすき!」「それでは何がいゝか。」「達磨さん!狐つり!」「狐つり面白いね。それをしよー。さあお父さんが狐になる。誰かいつて長い紐を持つてきなさい。」健吉は直に一筋の母の襷をもつて來る。「さあ其紐の眞中頃へ、くゝりかけの罠をこしらへる。そーして一人づゝ一方を持てゐる。それが番人だよ。」「お父さんしつかり?」「それから其罠の向ふへ何か小さいものを置く。」「このボールは。」「いゝ……それが狐のすきなおあげだよ。」「面白いな!」「狐はその罠の穴から手を出しておあげをとる。番人はすぐに紐を引ッぱつて狐の手をつるのだ。とられたら番人のまけ。いゝか。」「いゝ……さあ兄さんしつかり。」「さあ狐が行くぞ。さあ。」(狐はコンコンチキコンチキ……といふて上から又下、横から手を出すまねをして番人の不意をねらふ)「一二の三コンコンチキ コンチキチキ コン……」「あらしまつた……取られたねー」「もー一度。」
コンコンチキコンチキチキ……「しまつた。やられた!」「つッたつッた。」「信田のもりの狐をつッたつッた大きい大きい信田の森の……」
これは家庭で多くするところの遊戯で、少人數でもできなか〳〵面白い。狐と番人とは時々かはるのがいゝのです。

三　沈默將

母と清子は食後の片付がすんで、共に笑ひながら手をひいて出てくる。清子『おやまあ面白いことね。あのお父さんが』『よせて頂戴。』母『五人で何かしませう。』『鬼ごと。』『お日さま……』父『それもいゝが、食後にすぐあんまりはげしい運動をしてはいけないから、何か一つやさしいの、そーして面白いの。』『何を？』『沈默將』母『沈默！まあどんなことだろー』『これは始めにおとッさんが大將になつて運動するから、みんなは並んで其通りにする。そーしてどんな事でも笑つてはいけない。笑つたものは代つて沈默將になるのだ。お母さんも清子もいゝか一ッしよにだよ。』『用意始め……』

（大將は前にでゝ手を横に又上、片手は上、片手は下に頭をかき鼻をおさへ、耳を引きつとめておもしろく相手の笑ふやうなことをする。）

クヽヽクックッヽヽ『ソラ笑つた健吉さん。』『兄さんだ。』『よし、僕がお母さんや姉さんを笑はしてあげやう。』『ゑゝなか〳〵笑ふものですかねーお母さん』

母『しつかりしてゐますよ。なんぼにも笑らやしない。』健吉『用意……始め……』（前のごとく色々の動作をする）フッヽヽフヽヽ『あゝたまらん。』『ソラ姉さんが。』『大將だよ姉さんおかはり。』父『こりや面白い。』母『ずいぶん運動になりますね。』『お父さん、汗が出たよ。』『僕は一寸も笑はなかつたよ。』『すこしお休みなさい。』『あゝ面白い。おもしろい………』

これはおもしろく靜かに身體の諸部を運動させます沈着の心をやしなふにもいゝ。運動の間は口を閉ぢて深呼吸をするのです。

▲婦女子の接吻權

いつぞや、澳太利で或婦人に接吻して八百圓の賠償を取られた話がある。之れと正反對の一例が、先日米國にあつた。それは「ヘンリー、アルバート」と云ふ一少年が、自分の知らない一婦人に接吻せられ、其返報に此女をなぐつた。するとそれが間もなく裁判沙汰となり、判事のシドナー氏は此少年に五拾圓の科料を申付け、偖云ふよふ、抑婦女子は自分の好むまゝに男子を接吻する權利がある。男子は假令其婦人を知らないにせよ、之を名譽と心得ればならぬ。云々………

がる、がり

黒田湖山

嬉しがる、面白がる、がるに邪氣なし、得意がる、威張りたがる、通がる、がるに稍厭味あり、而して、慈善家がり、耶蘇教信者がり、死にたがるに及んで、厭嫌の情止めがたく、特に家庭家がるに至つては、會つて既に歯の浮くが如き感に堪へざる也。

がるは、强ひてを意味し、誇張を意味し、又衒氣を意味す。更に將た、半可を意味し、僞善を意味す。「彼奴はいやに大人がるぢや無いか。」夫れ然り、小兒の群、既にがるを厭ふの情ある也。

何れの地に行くも、乞食がり、泥棒がり、高利貸がり、詐僞がり、嗇吝家がるものあらず、がるは常に世の美事、善事に向つて表示され、吾人ががるに對して、懐く嫌厭の情は、事の美なる程度、善なる程度に反比例をなして示さる。

然らば、今日の世、吾人をして最も多く歯を浮かしむる家庭家がらんとするもの丶保有せる半面は、是れ正しく最も美なる事、善なる事たるの理由を表示せるものと言はざる可からず。

世の所謂家庭家にして、其家庭家がるの色を示さずんば、其人や、世の最も美なるもの、また世の最も善なるものたらずんば非ざる也。

大仙大俗に似たり、至賢至愚に似たり、眞個の家庭家たるものは、亦宜しく非家庭家に似たるの面目ある可し。がるものに至つては、未だ家庭を語るに足らざる也。

（主人）おい／＼偶に歸つて來たのに騷々しいなあ。耳の障子が破れるわ。

（細君）太郎に太皷を買つてやりましたわ。

（主人）何故又其樣なやかましい物を買つてやるのだれ。

（細君）だつて……まだこれで靜かになつたのですよ。あの太皷の買へない時分は、それこそ家がひつくり返へるかと思ふ程毎日太郎が騷ぐのですもの。

△アングロサクソン民族の教育

▲獨立の精神　アングロサクソン民族の父母は、其の子女を彼等の所有物と考へず、又彼等の生涯の繼續者なりとも考へずして、子女は可成速かに父母より離れ、獨立せざるべからざるものとなす。故に父母の苦心する所は、如何にして其子女に獨立の精神と、獨立し得べき技能とを得せしむべきかに在り。然るに我が國の父母は、子女を以て自己の所有物と心得、自己の意志を以て子女の一生を左右せんとす。……實に假面を被れる利己心にして、自己の爲に子女を賊ふものと云はざるべからず。我國の父母は子女を愛する事餘り深きに過ぐ。否子女を愛するの道を誤れり。子女を愛するにあらずして、自己の情と慾との爲めに之を愛す。

▲權利義務の念　アングロサクソンの父母は、幼き時より成長の後まで、其子女を獨立せる一人前の人物として取扱ひ、苟にも人の附屬物たる一人前に足らざるものなりとの觀念を與へず。責任はこれを責め、義務は之を盡さしめ、權利は之を主張せしむ。凡て人は價値あるものとして取扱へば、實際それ丈の價値ある人物たらんと、自ら力行するものにして、小兒と雖もこれを輕視せずんば、輕視すべからざるの性格を自ら自然に作る事明なり。我國人は、之に反して、子女を自己の附屬物として取扱ひ、其の幼兒を小兒視するのみならず、成長したる子女をも尙ほ小兒の如く待遇するの習慣を有す。

▲教育と親權　アングロサクソンの父母は、不得已場合の外は親の權威を振り廻はす事甚だ稀なり。彼等は其兒女を獨立せる一人前の人物として取扱ふが故に、親權を以て干涉するを欲せず。教育は鍛練を要すると雖も、[illegible]べからずとは、彼等の思想なり。（楳堂生）

△日本の子供

由來日本の子供は、どうしても悲觀的、厭世的の頭腦に傾き易い。チョット打擊があると、忽ち憤激して怒る。そして、もう往はぬも、無益だと云ふやうな場合には、直に自棄になるか、或は元氣が沮喪して了ふ。何時やら私が聽いた話に、某外國人が日本の女學校の生徒か小學校の生徒かの作文を見たことがある。「蟻の説」と云ふ文題であつた。所が、蟻の能書を色々書き出して、「彼等は孜々營々として働いて居る。人にして蟻に若かざる者あり。嗚呼。」と云ふ結句である。西洋人は手を拍つて感服し、實に日本人はエライ。斯くの如き子供の中から、こんな哲學思想を持つて居るものもあつたかと、にこ〳〵して、又次ぎのを見ると、終りが、「人にして蟻に若かざる者あり。嗚呼――」變だと思つて、その次の作文を調べると、矢張「人にして……」西洋人は全く呆れて了ひまして、今度は手あたり次第にお終ひ丈を見ますると、十ある内七つまでは、「人にして蟻に若かざるものあり。」だ。――何か本にでもあつたものかも知れない。そこで、西洋人は更に嘆じて云ふには、是はどうも詰らない。かう云ふ器械的の哲學思想ぢや面白くないと、言つたことがあるさうです。私に言はせれば、「人にして蟻に若かざる者あり。」では、人が意氣地のない話である。自分を卑下して、自分を投げて掛つて居る、蟻の前に手を突いた書き方である。それよりは、蟻と云ふものは孜々營々として、我々人間の眞似をして居ると云つたらどうです。自分の方が一段高くなつて、蟻が自分の前に來て、降參して居る。斯う云ふ書き方のはうが面白からう。斯う云ふ書き方のはうが大頭腦を現はして居る。蟻は働いて居るが、己れは働けない。ア、詰まらないと嘆いで仕舞つては、人間意氣地がなさ過ぎるではありませんか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戦の物語

ヰンメー作
伊東猷密譯

（一）

林檎の園はいろづきて、参かる男等は業終へぬ。
黄金の森を朱(あけ)にして、やがては落ちん夕影に。
宴戸に近く安楽椅子(ゐす)おきて、寛ぎませる祖父君が。
雪と古りにし頭髪(かみ)のべに、吹くともしらぬ夕つ風。」

（二）

祖父のかたへに脆づく、年うら若き女あり。
此迄しらぬ悲みに、心もいとゞみだれつゝ。
年波しろき胸倉に、やさし姿を抱かれつ。
遙に聞ゆる喇叭の音、飛ぶかとはかり凄じく。
うつは鼓か雷か、響きぞ渡る轟々と。」

（三）

なりしも祖父は耳語(さゝや)きぬ。
そも此度のたゝかひは、誰か見つべき終なる、
婿は御國に祈を神に、捧げんものぞ汝とわれ。」
牧場は星と蓋して、月を縁とりぬばら二葉。
園の千草のしげみには、薄桃色の花ぞさく。」

（四）

椅子のみありて祖父もなき、小屋は小暗し物凄し。
修羅の巷に墳墓(おくつき)の、名もなきものは誰ならん。
小山の下に尋(と)めくれば、塚は新しまた一つ。」
あはれ火もなき竈べに、涙も出す、色やせて、
女坐はりつ只ひとり。隅に掛けたる古時計、
時うつ音も打しづみけり。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

下婢問題

枯川

下婢問題については、予は「家庭の新風味」にも大分苦い事を云つて置いた。家庭雜誌の初刊にも「浮世風呂」の一節を載せて細君達の御參考に供して置いた。然し、目的の達せられるまでは幾度でも同じ様な事を繰返さねばならぬ。

近刊の六合雜誌に「下婢組合の設立」と題する一文が載せられてあるが、それは米國の東部にあるホリヨーク及びニユーヘブンと云ふ二つの都會に下婢組合の設立せられた事を報じたもので其組合の規約は左の如し

一、下婢の勞働時間は毎週六十時間とす。

二、勞働時間は日曜を除くの外、毎日午前六時より午後一時まで、及び午後五時より七時までとし、日曜は午前八時より午後二時までとす。

三、右規定の勞働時間以外に働きを命せらるゝ場合には、一時間十五セントの割增金を受くべし、但し夜間、日曜、祭日等に於ける場合は二倍の割增金即ち三十セントを受くべし。

四、洗濯を爲す場合には普通の洗濯屋と同樣の報酬を受け、火ノシをすれば一時間二十セントの割增金を受くべし。

五、小兒の世話を爲す場合には一時間につき十五セントの割增金を受くべし。

六、暖室爐の世話を命せらるゝ者は毎週賃銀の外に一弗を受くべし。

七、下婢の賃銀は毎週五弗を以て最少額とす。

八、賃銀及び割增金は共に土曜日の晩に支拂ふべきものとす。

九、子守の時間は毎日午前七時より午後七時まで、日曜は午後一時までとす。

十、病氣に罹れる小兒の世話を爲す場合には一時間二十セントの割增金を受くべし。

十一、九個月以上勤續したる下婢は二週間の休暇を請求することを得、但し休暇中も平常の如く賃銀を

支拂はるべし。

讀者諸君は之を見て如何の感を起さるゝか、或細君の如きは忽ちに其の美しき眉を顰めて「ソンナ生意氣な、ソンナ失敬な下女があるものか」と一口に仰しやるかも知れぬ。如何にも此規約の中には餘りと思はれる節々も少くはないが、彼等とても必要の無いに組合なんぞ作りはせぬ。夜道に追剝が出ると云へばこそ仕込杖の一本も携へて行くと云ふ事になるのであるが、都の大道を歩くに誰も武器なんぞ持ちはせぬ。して見れば、彼等の同類は毎度追剝にも遭うて、隨分手込の辱しめも受けた覺えがあるので、是れではモウ迚も夜道を獨り素手では歩かれぬと覺悟して、それで組合といふ道連を作り、規約といふ仕込杖を携へる事になつたのであらう。追剝とは餘りヒドイ喩かも知れぬが、否應なしにコキ使はれて、サモむごたらしい扱ひを受けて見れば、實際そんな感じがするかも知れぬ。それでも外に食ふ道が無ければ仕方なしに泣寢入をして、恨みながらも勤めて行く。又無學な連中になれば、不平と云ふ事も知らずに、ソンナものだと明らめて濟んでしまふ。昔は斬棄御免といふ恐ろしい事があつて、それすら百姓は明らめて默つて居た。然るに、世の中は段々と進んで、殊に米國などでは女子の職業も多くなる、女中奉公などせずとも外に幾らも食ふ法がある、それに教育が普及して、奉公せしものとても相應の思慮分別が出來て、ソウ〱泣寢入ばかりはして居らず、不平も多くなる、恨みも重なる、そこでトウ〱公然旗擧をして、組合となり、規約となつたのであらう。是れは丁度、人民が團結して政黨を作り、壓制政府に對抗して、終に憲法を定めさせたと同じ事で、壓制の行はれる所に免かれがたき現象である。そこで予は此規約を逐條に講究して見たいと思ふ。

一、此規約は先づ第一に勞働時間を定めて居る。女中に勞働時間の定まらぬはドコモ同じと見える。人の力には限があるから、ソウ〱朝から夜まで働きづめに出來るものでは無い。然るに若い夫婦などには隨分と思ひやりの無いのがあつて、夜は一番おそく寢かし、

朝は一番はやく起しておいて、そして其の居ねむりを嘲り笑つて居る樣な連中もある。尤も、女中と云ふ役目は外の職業とは違つて、時間の定めにくい性質の者ではあるが、定めにくいと云ふのを楯にして、ヤタラと不規則に使はれては堪つたものでない、そこで彼等は一週六十時間といふ要求をしたのであらう。一週六十時間と云へば一日平均八時間半で、今日世界を通じて適當な勞働時間は八時間と極つて居るから、是れはドウしても當然と認ねばなるまい。

二、一週六十時間を毎日に振りあて〻、午前六時より午後一時まで、及び午後五時より七時までと定めたのは、是れ亦當然と云ふの外は無い。是れだけの時間をチャンと勤めれば、三度の食事の世話は十分に出來る。全體、女中の職務は食事の世話が第一で、日本で云へば、水を汲んで飯を焚いて汁を煮て、跡で皿茶碗を洗へばそれで善い。其外には朝飯後の掃除ぐらいなものであらう。それなら午前六時から午後一時までと午後五時から七時までとで澤山な筈である。そうすれば、午後と夜とに彼等の自由な時間が出來て、其間に休息も仕ようし、讀み書きなり縫針なりの稽古も仕ようし、彼等の健康の爲に、修養の爲に、何ほど善い事か知れぬ。それから日曜に限り特に半日を休暇にしたのも當然と云ふより外は無い。彼等とて親や兄弟に會ひたくもあらう、親戚や友人を尋ねたくもあらう、それを爲せぬのは情を餓やすと云ふもの。そこで日曜毎に晝からを暇にして外出を許す事とすれば、彼等も何ほどの愉快か知れぬ。そうしておけば又其翌日から精だして働く氣にもなるであらう。但し日本では日曜と云ふよりも、朔日十五日と云ふ樣な日を定めるが善いかも知れぬ。必ずしも一週一回の休暇で無くとも、兎にかく自由に外出する日を定めてやるだけの事はゼヒして貰ひたいものである。

三、既に時間を定めるからは、時間以外の勞働に對して割增金を要求するのは當然の事である。時間以外には一切働かぬと云ふ譯にも行くまいから、其場合には割增金でも貰ふより外は無い筈である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四、洗濯は日本では女中の當然の仕事となつて居るが、米國では臨時の仕事として居ると見える。洗濯が當然の仕事であるか、臨時の仕事であるかは、先づドチラでも善いとして、兎にかく女中の職務を定める事は必要であると思ふ。これ〳〵これ〳〵がお前の職務だと明かに定められてあれば、少々仕事は多くとも敢て不平はあるまいが、何といふ定めは無しに、跡から〳〵幾らでも仕事を云ひつけられては、働けば働くだけ損と云ふ樣な氣がするに違ひない。此邊は日本の細君達が十分に注意すべき事であらうと思ふ。それから日本ではマダ割増金と云ふほどの譯にも行くまいが、臨時の仕事をさせた場合には、させた方でよく其事を覺えて居て、キットそれだけの埋めあはせをしてやらねばなるまい。兎かく都合の惡ひ事は忘れがちになつたり、或は忘れた振をする樣な事になるものであるが、そんな事では細君たる者の德が缺けまする。

五、六、これは前の條と同じ事で、別に云ふほどの事はない。

七、毎週五弗と云へば一月四十圓に當る。如何に米國が富んで居て、物價も隨つて高いとは云へ、女中の給金が月四十圓とは驚くべきではありませぬか。給金ばかりを無暗に安くさせたがる細君達は少しお考へなさるが善い。

八、是れも別に云ふ程の事は無い。米國では何でも一週間で勘定をするが、日本では月末拂で別に不都合はあるまい。

九、十、是も別に云ふ程の事は無い。

十一、九個月に二週間の休暇、是れはユックリ保養するとか、遠方の親兄弟を尋ねるとか云ふのであらうが、日本ではマダそれほどにする必要はあるまい。但し、一年に一度ぐらゐ、三日か五日の休暇を與へるのは雇主の情であらうと思ふ。

扨是れで逐條の講究は濟んだ。濟んだ上で考えて見ると、米國と日本とでは大分事情が違ふ。米國では小さな月給取などが女中を置く樣な事は無く、女中を置くと云へば、いづれ大家の事であるから、自然雇主と

雇人との間に大きな溝があつて、互に同情も無くなるのであるが、日本では、女中を家族同様に取扱ふ風が多いので、其邊は甚だ喜ぶべき次第である。然し又、其家族同樣と云ふ中に主從と云ふ樣な昔の考へが殘つて居て、妙に一種の階級制度を爲して居る場合が多い。それに女子の職業の多くなつた事と敎育の普及した事とは、米國に似た事情もあるので、今後の女中たる者が不平の念を高めるのは無論の事であらうと思ふ。そこで雇主なる者が其邊の事情に善く注意して、女中に對する待遇を改めぬならば、やはり組合が出來たり、規則が出來たりして、公然と對陣する樣な事になるかも知れぬ。今度はマア是れだけにして置く。

（主人）　富、仕事をし乍ら口笛を吹くのはよせよ。

（富吉）　仕事をしちや居ません。只口笛丈吹いて居ます。

オツカさんのお話材料

――子守天女とお菊坊――

さあ、ねんねおしなさい。面白いお話をしてあげますよ。ある日ねえお菊と云ふ子が、只一人森の中で遊んで居りましたとさ。すると、何時の間にか其所に一人の綺麗な天女が、眩ゆい程に御光を向けて、につこりと笑ひ乍ら立つて居るぢやありませんか。だから、お菊は吃驚して見詰めて居りますと、

『妾は天に居る子守天女だがねえ。今日からお前は妾が預りませう。』

と申しますから、お菊も大きに喜んで、

『はい。』

と返事をしますと、天女は其儘お菊を小脇に抱え、天をば差して昇つてしまいました。で、不圖氣が付くと、お菊はもう天に居るので御座いませう。兎も角目新しいものですから、きよと〳〵して其邊を見回はしますと、美しい花が咲いて居るし、小鳥は歌をうたつて居

るし、又自分位の可愛らしい娘達が、澤山に集つて、樂しさうに遊んで居るのでせう。それ故、お菊はもうすつかりお父さんや、お母さんの事を忘れてしまひ、毎日毎日他の娘達と一所になつて、鬼事したり手毬をついたり、面白可笑しく暮して居りました。處がある日の事で御座います。例の子守天女がお菊の傍へ近寄つて、

『妾は今日から下界へ旅をして來るから、留守中お倉の鍵をばお前に預けて置きますよ。宜しいか。そら此所に十二あるよ。此中で一番大きい鍵丈は大切なのだから、大事にして失してはいけないの。そして又お前が使つてもいけないの。他の鍵なら宜しいが……』

と、かう申し渡し、早々下界へと旅立致しました。で、お菊は日々その鍵を手に持つて、大切に守つて居りましたが、矢張小供の事ですから、どうかして倉の中を見たくてなりません。なあに、大きな鍵丈使はなければ大丈夫であらう。と自分で定めて、翌日第一番の倉を開けて見ますと、中には子守天女よりはまた〱綺麗な天女が、淋しさうに立つて居りました。お菊は其天女の美しさに、暫時心を奪れて居りましたが、急にまた、其次の倉が見たくなつたので、手早くそれを以前の通りにして、次の倉を開けると、其所にも前と同じやうな天女が、目の前に微笑んで居りました。何だ又天女かと思つて、お菊は少し落膽致しましたけれど、さうかと云つて、又其次の倉を見ずにしまう事は、どうあつても出來ません。それから段々と順繰に見てまはりましたが、大抵は皆な天女が一人宛居る斗りで、何にも珍らしい物は見えませんでした。仕方がない故お菊は其儘歸らうとして、不圖思出したのは第十二番目の倉の事です。子守天女が旅立つ折、此鍵斗りは使つていけないと、云つては置かれたけれど、一寸位開けて見たとて宜いだらう。又後でわからう筈もあるまいから、とお終ひには此様な大膽な氣になり、そつと其邊を見廻しますと、幸ひ誰も居りません。丁度好い時だと思つたお菊は、直様一番大きな鍵を取出し、かちりと斗り錠をはづして、戸を開けて見るが早いか、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中からはさつと輝く幾筋とも知れぬ尊い御光が、お菊の身體を射付けたので、お菊はもうゆる〳〵と見物する所ではない、其儘其所に氣絶してしまつて、死んだ人のやうに倒れて居りました。暫時經つて、やつと氣が付いて見ると、先程の事は丸で夢のやうです。改めておず〳〵と倉の方に目を向けたが、戸は何時の間にかぴつたりと締つて居て、自分が開けたやうでもありません。それを見てお菊もやう〳〵安心致し、こり〳〵して此方へ戻つて參りましたが、其途中、何だか妙に光る物があるやうに思はれるので、よく〳〵調べて見ると驚いた。お菊の右手の指三本に、ぴか〳〵御光が映つて居るではありませんか。多分使つてはならぬと云はれた鍵を、かまはず使つたからでせう。お菊もこれには大層

●菊の異名

佳友、寐客、節花、女華、女節、笑靨金、女莖、更生、陰成、日精周盈、傅延年、帝女花、黄花、

（以上から）

〰〰〰〰

まさり草、百夜草、星見草、形見草、よはひ草、かはしも草、ちぎり草、黄金草、からよもぎ、秋の花、乙女花、山の草、草の主、秋しく花、長月花、いなて草、

（以上やまと）

困つて、あゝ悪い事をしたと悔んでも仕様がない。いろ〳〵と考へてその指を水で以て洗ひましたが、その御光は落ちないでしまひました。』

『どうしたらば落ちるか知ら。大變な事をしたものだ……。』

と、其夜は終夜寐られず、心をさま〳〵に苦しめて居りましたが、丁度翌日、子守天女は用事を濟ませて下界から戻つて參り、

『やれ〳〵、どうも御苦勞樣でした。嘸退屈したであらうねえ。』

と、お菊を頻りと勞はつて、頭を我手で撫てやらうと致した時、忽ち天女はお菊の指に目を付けて、直ぐ恐い顔になり、居住を直して嚴重に問糺しました。

『これお菊、お前の手はどうしたのかい？』

『……』

『返答をなさい！』

併し、お菊は有體に云へば、どんな辛い目に逢はうやも知れぬと思ひますから、俯向いた切りで一口も白狀しやうとは致しません。

『返答が出來ないのだね。それではよろしい。』

と、天女は大變に怒つたのでせう。其夜お菊が寢て居る間に、白雲に載せて下界の廣い野原へ捨て了ひました。

それから暫らく經つての事です。お天氣の大層よかつた日、その土地の王樣に御狩の催しがあつて、この廣い野原をお通りになつたが、不圖見ると、大きな木の切株に一人の美しい娘が、襤褸を着た儘で坐つて居りました。で、王樣はお菊だと云ふ事を知りませんから、誰であらうと思ひ、近寄つていろ／＼尋ねて見ましたけれど、啞だと見えて一向口をきゝません。併し、顏は天女のやうな類稀なる美人ですから、早速召連れて御歸城になり、一年ばかりの後、到頭御自分の皇后樣になさいました。

すると、その翌年、皇后樣のお菊にお子樣が出來たので、下々の者は大喜びです。處が或晩、皇后樣は例時の通りお乳を飲ませて、臥戸に休んで居りますと、何處からともなく一人の天女が舞込んで來て、

『お前はいつぞや天の倉を開けたでせう。第十二番目の倉の戸を……』

と尋ねます。けれど皇后樣は剛情に首を振つて、

『いゝえ。』

と答へたので、天女はもうものをも云はず、皇后樣が抱いて居る赤兒を取上げ、ふいと姿を隱して了ひました。

翌日になつて、王樣始め家來の方々は、隨分大騷ぎを致しましたが、不思議にも皇后樣は人間にものが云へず、仕方がないから奇體だ／＼と噺し乍ら、其儘で立消えになりました。其後又一年經つと、幸ひ二度目のお子樣がお產れになつたのですが、どうした理由だか、間もなくその赤兒も又消えてなくなつた始末に、下々の者は口々に、

『あれはどうしても皇后樣がお殺ろしになるのであらう、酷い方もあつたものだ。子供が可愛くないのだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らうか。」

など吹聽し、一方では其由を委しく王様のお耳に入れて、重い御處刑をなさるやうにと、勸める人もありました。王様も實は不思議でならないので、

『成程其方の申す事は尤もぢや。いろ〳〵と私も考へて居るが、どうも丸で掴みやうもないやうな次第ぢや。然し、まあさう短氣を起さずと、今暫時待つて見て呉れ。其内には實際の處が分るであらうから。』

と、何分可愛しい皇后様の事ですから、家來が勸めたとは云ひ條、さう輕々しくは處刑も出來ず、これには屹度深い理由があるに相違ないと思つて、其儘にして置きました。すると、今度は三度目に、玉のやうな御子様が出來たので、國中は皆雀躍して萬歳々々と、酒宴などを開く家も御座いましたが、奇体ではありませんか、又候其子も行方知れずになつたのです。で。如何に何でも此上默つて濟して居る譯には行かない。王様とても流石に呆れて了つて、到頭皇后様を火刑にする事になり、裏の川原へ薪を積み上げ、衝立てた鐵棒

に皇后様を結び付けて、今にも火をつけやうと致しました時、皇后様は咽喉も張裂けさうな聲をたてヽ、

『あヽ妾が惡かつた。お倉の戸をば開けました。』

と、初めて白狀致しましたが、傍の人々は啞がものを云つたと云ふので、大變怪訝な顏をして居ります。すると、丁度其聲が天へも聞えたものと見え、かの子守天女は以前の通り優しい笑顔で、今迄皇后様が産んだ三人の子供をば、腕に抱えてひらりと其所へ下つて參りました。そして仰有るには、

『早く白狀さへすればよいものを。隱して居た計りに此樣な目に逢うのですよ。さう後悔して白狀したらもうよろしい。預つて居た小供は返へして上げませう。』

とて、又ふいと姿が見えなくなりました。そこで、王様も皇后様の罪を許して、一生安樂に暮したさうで御座います。勿論それと同時に皇后様は立派に口が利けるやうになつた。どうです面白かつたでせう。

かう云て、オッカさんは小供を見ますると何時の間に寐た事やら、可愛い顔して小さい鼾をスウスウ……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

花と家庭（三）

―草花栽培の要素―

久田二葉

花に對する吾が輩の氣焔が終つたと同時に『草花栽培の要素を』語ることになつた。題目既に農學の講義の如し、吾が輩の言も勢ひそれに傾かざるを得ぬが、そこは花と家庭の友を以て自ら任じ居る餘りウンと奮發して、面白いと迄では行かずともセメては、欠伸丈けを買はぬやうに語らうと思ふ。隨ツて奥深く學理や實驗の蔓をたぐらぬことにする。讀者諸君諒せられよ。

それからちよツと申上げて置きたいのは、各種草花の栽培法である。これは語るものと今既に植えて居るものこそ面白けれ、「花も面白けれど作る所がなくて……」とか『コンナものは緣日で買ツて來りやよい』とか云ふ人は何々の栽培法……と云ふ工合に語られても有難くなからうから、余は來たらん卅七年のよい時節を待ち、斬新な趣向によツて、自製の『花ごよみ』をこしらへ、花の咲く時節、形、色、自然界との配合の工合、變種の情狀、簡單な栽培法効用などを、一覽表のやうに、而かも乾燥無味ならざるべく書いて見やうと思ふ。そうすれば貴い紙を多く費やさずに、面白味と要領を得られると思ふ。であるから今度は花を育てるについての、入門の話をする。もし讀者諸君が、

▲どうすれば花が美しく咲くか

と問はるれば、吾が輩は唯だ『愛するに限る』と答へるが、どうすれば『愛』したことになるか。……吾が愛の子を育てるには、乳を與へ、食物を與へ子守を與へ、居る所遊ぶ所を撰ばねばならぬと同じく、花もそのやうにせねばならぬ。唯だ花の居る所は、金殿玉樓を撰ぶ必要がなく、見え坊主義から割り出す、貴い衣服はいらぬのみである。人類の中で最も自然に近い小兒は木綿着物でも、やツぱり自然と人との寵兒である如く、籔の中、雜草の中、猫の額のやうに庭にあツても花はやツぱり自然の愛の子である。

これ丈けでは花も、なか〱育て難いやうだが、實

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は案外易いものであることは、無教育にしてマズいものを喰い、汚いものを着て居る乞食も立派に子を育てると同じことだ。が、上を見れば限りがない。自分の教育によつて、自分の兒を耶蘇や孔子のやうなエライ人にするのは中々むづかしい、否、しやうと思ふても出來ぬやうに、花も飛び切り無類のものにするのは中々難事だ。けれども吾々は、自身の修養さい碌々爲し得ぬものだから、一通りの花が育ては、それで充分とせねばならぬ。よし又、自分の心も、子も一通りに育て、花をも一通りに栽培し、萬事之より、よく育てたいと云ふ人には、既に吾が輩の說法は間に合はぬから、御存じのよい書物とエライ人に就いて、タント聞いて下さい。

▲花はどんな所で育たうか

これは愛の吾が子と共に、或は反對の屋外の大地でよろしい。けれども吾が子に光線と空氣の流通よき室を要した如く、これにも光線と空氣が、極く流通のよい所が望ましい。それから小兒に垢のつかぬ柔かき衣服を要した如く、これにも粘からず、輕るからず、餘り陰濕の地ならず、餘り乾き過ぎずと云ふ地面を與へるがよい。尤も濕るところを好きな水仙先生や蓮先生も居る。また乾いた地面に青々として居ることを好きな先生も居る。地面の色は、赤でも黒でも灰色でも、大いした影響はないが、一般に粘過ぎる地面は花によくないと心懸けるが得策である。また花を作らうと云ふ心ざしあれば、猫の額ほどの地面は、運動に兼ねて改良が出來るから、花を趣味とする心懸けは何より望ましい。

餘り農學の講義然たることをやるも家庭雜誌には、如何はしいから、この位で止して、次は、

▲花に何を與へればよからうか

人の子に乳汁を呑ませ、自然の子たる花には、自然の乳たる雨と露とを與へるのだ。が、人の子も少し大きくなると、乳以外の喰ひ物を要する如く、花も芽を出して少し大きくなると何か他の喰ひ物を與へねばならぬ。人の子の喰ひ物に種々あつて、しかも同じ物が

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二種と無いやうに、花の喰ひ物の肥料にも種々あつてどれに限ると斷言出來ぬ。そこで山の中の農家の人達は野菜や米や麥のみで、肴は餘り喰はずにしかも立派な人になるやうに、吾々の小さな家庭のやうな別に肥料を得難い此では一掬の灰、豆腐粕、米糠、などをそんじよそこらで求て、水で解かして、根の二三寸外の方へ與へ、土を被ふてやるがよい。この肥を二三種も混てやると云ふことは栽培家の大に心得べきことである。例のよい香のする人屎もよけれど、始めての栽培者は香と形ちにやッつけられたから、これは後にするがよい。尤も中には、アノ肥料をやれば枯れ、此の肥料には大に生長る花もあるが、初めての栽培者はそんなことに頓首なく、枯らす積りで作ッてみるべし、這の般のことを深く語るには、幾百頁を要するから、これも委しいことは諸君で、調べられるとして、(又は質問せられよ）こんどはちと小世話しいが、

▲花守と自然の母のつとめ

である。此の役を果すには、いろ〳〵の道具は入るが、これも初めての栽培者には、隣りて借りられるカケ鍬一個で用を辨じるとして、長々とした說明は拔きにする。そうして『つとめ』のあらましを語らうなら、先づ第一に種ねを蒔くことである、これを蒔くには何のことはない作らうと思ふ地面を、鍬でチョン〳〵と耕つて土を細かくし、それから又た平かにして、それを幾分かに正しく區劃して、便宜の爲め番號をつけて、金蓮花は一番へ、三色スミレは二番へ、と云ふ工合に、種子をバラ〳〵と播くさ、そうして其の上へ別に用意した細かい土を、種子が見えぬやうになるほど一面に撒いて後は生えて出る迄投ッて置く。余り乾けば水を注ぎ、小鳥や鷄にホジクられる心配があれば、俵のクズか何かで上を被ふて、四隅へ小石でも載せて置くがよい。

生えて出れば、被へ物あれば除き、余り乾けば水を如露位で注けてやれ(必ず朝か夕に於て)、二三寸になれば鉢へ移すとか、花壇へ移すとか、それ〴〵しやれたことをやるのであるが、小家庭では、そこに其の儘立

ち生えさすることだ。そうすれば尙、草の元氣がよくて美しい花を咲く、尤も其の時は、草と草とが、自由に育つやうに間引してやらねばならぬ。

例の喰ひ物たる花の肥料は此の時分からやりかけるのである。これをやるには、さきに云ふたやうに、或はそれよりよいやうにしなければならぬ。その他してやらねばならぬことは、莖が弱はければ杖を立てゝやること、蟲がつけば除いてやること、雜草が生えれば採つてやることなどである。時によると花が病に罹ることがあれど、之れを除くには難しい藥と器械と入る上理窟も少々入用ですから、こゝでは說明しませぬ。それから元來、花にはいろ／＼あつて、育て方は一々同じいとは云へぬ。けれどこれは唯だ、花を作ると家庭と人の心との改良が出來るとの主義から、花を作ることを少しも知らない人に、おすゝめする傍ら作り方の入門の入門をお話し申したまでゝあります。

△細君案の朝寐矯正案

細君があつた。彼女は夫の歸宅が每夜々々遲くなるので、何か好い矯正策があるまいかと、終日長火鉢にもたれて考へて居たが、

「おゝ好い事がある。何より朝起を早くさせる事だ。」

ぽんと膝を打つてかう呟き、直樣此翌朝から此妙案を實行したのである。

固より夫は細君の御機嫌取で評判の男、到頭其朝は六時と云ふに蒲團をまくられ、不平な顏も見せずに起きた。それは好かつたが、細君の算盤通り、夫が早く歸つて來るかと思ふとさうは行かぬ、矢張其夜も下町の事務所から一時過ぎに歸る。仕方がないから、次の朝は五時に起した。

「朝起きは三文の德があるつてねえ。そして朝の空氣を呼吸すると、心が美しうなりますよ。」

夫も五時には少々閉口したが、ぶつ／＼云ひ乍ら（陰で）到頭起て來た。細君はこれならば、と思ひ、夕方御馳走をこしらへ、おまけに寢床迄用意して待つて居ると、矢張歸つて來ない、そこでその又翌朝には四時三十分に値上げして夫を寢間から引出し、

「一寸御覽なさい、太陽が今丁度出る處ですの。」

流石の夫もこれには少なからず驚いて、

「そ、そんな早く起きなきやならんのなら仕方がない、寧そ私は每晩眠らずに居るよ。そして事務所で以て眠る事にするから、每朝三時に朝飯を食はして貰はう。」

家庭文庫

△赤き十字架――本田憲之著――警醒社

僅か五十頁の片々たる小册子、あんな本が何であらう。と冷淡に待過し批評する人間があつたならば、恐らく其人は明盲目であらう。赤い仕掛けに迷ふ人であらう。心のない人であらう。此書小なりと雖も内容に活きたる精神あり、大意味あり。一頁十一行三十字詰、字は悉く玉、句は皆な寳。如何なる人にても此書の眞價を讀んだならば、必ず一躍して偉大な人となれる。それでなくとも、至誠至純の心靈を養ふ事が出來る。愛の如何なるものであるかゞ明瞭に解る。そしてこの愛の熱の如何に強烈なるものであるかを咀嚼するに容易い。文章は平易で明白。此書は家庭よりも寧ろ人類一般の好讀物である。(價は記してない。何となく商賣的の本ではないらしい。當時の書籍は價の馬鹿に高い本に、却て食はせ物がある。用意〳〵)

△少年――京橋南鍋町――時事新報社

日本の家庭に雜誌の購讀を勸めるのは、現今の處で急務の一つである。吾人は本號に於てこゝに新趣味を持つた少年雜誌「少年」を皆様に推薦するの機會に到着した。此雜誌の特色は主に世の兒童の頭腦をして、常識的たらしめやうとするのである。在來の少年雜誌が、只單に面白い話や可笑しい事をのみ書いて居るのに對して、「少年」はそこに欠けたる一新地を開拓し、科學的智識の注入、事務的才能の練磨、乃至は時事問題等にも一わたりの解説を與へて、さらに例の時事新報社流の主義を飽く迄も發展せんと力めて居る。かくして育てられた今後の少年、かくして感化せられた今後の兒童、それは必ず紛糾錯雜な社會に處しても、堂々の歩調を取るに堪へ得べき、完全な紳士が出來上るであらう。吾人は此雜誌編輯者の見地に贊同す。

△歐米家庭德育佳話――松浦政泰編――警醒社

女學叢書の第三編として、過般出版になつた事は、本誌前號の廣告にて冷れく御承知の筈である。編者の目的では此書專ら家庭教育當務者の參考に供する爲に公にせられたもので、前後三百章一として德育講話の材料とならざるものはない。上編には個人道德と云ふ見出しで、自己に對する本務と、他人に對する本務の二項に分ち、又下編は國體道德、これは主に家族、國家、神佛に對する德義を具象的に説明してある。吾人は此書を以て好著と云ふ事は出來ないけれど、文庫の間に一本を備へて置くのも亦妙であらう。著者の骨折りは其體裁、材料の配列順序、德性の一々を區分した處など、凡て便利至極、用意周到に出來て居るのが、本書の特色である。(價五十錢)

△遠航紀念帖――京橋竹川町――共益商社

これはまた莊飾品として頗る上乘のものである。應接間などのテーブルの上に、此様な本の備付があつたならば、如何に其家の人々の趣味高きかを説明するだらう。遠航とは遠洋航海の事で、本年二月我が少尉候補百八十三名を乘せた嚴島、松島、橋立の三艦が、練習の爲に濠洲の沿岸を周遊した一大紀念出版物である。航海中の記事は一も洩らず、百葉程に亘つた人物、景色の寫眞、それに釘裝の完備したる、意匠の斬新なる、近來に稀れたる出版物と申してよからう。價は贅澤品丈に(金二圓)

△大日本軍隊書帖――宮本蕃山編――共益商社

家庭的裝飾品の一つである、小供等に軍隊的智識を與へる積かも知れぬ。陸軍軍人一代記とも云ふべきものが、悉皆着色畫報となつて出て居るのである。但し畫は感心が出來ない。寧ろ拙なりとや云はん。(價の明記なし)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯机上より

△本號がもう今年のお名殘であります。本誌も讀者諸君の御愛顧に依つて、段々盛大となつて來ましたが、さて來號からは第二卷の舞臺に入り、一歳の齡を重ねる事ぞと思ふと、何だか胸中に一種の覺悟が湧いて來るのです、それ故年の革ると共に一層奮發致し、内容編輯共に有益に完美に、埋草の六號活字の内にも眞理が流露して居ると云つた樣な具合に致したいのです。

△『花と家庭』の作者久田氏から、『花を作りたい人へ』と云ふ題で、次の如きものが參りました。因に同氏目下の住所は『加賀鶴來町字馬場』であります。

諸君が、吾が望の『花と家庭』を、小言を云はずに聞いて下さつたお禮として、來年の春蒔く、花の種子を、一人に四五種づゝ二三十人に進呈する。花を初めて作つてみやうと思はれる方は、花を作りたくなつた感と送費とを添へて申込んで下されば、蒔く時節と花の形、色など書いたのを添へて送ります。これ又た一種の雅事ではありませんが……それから花に關することは、如何なることでも、質問して下さい。お答します。來年は筆と頭を新たにして、亦『花と家庭』に關することを、題を換へて語らうと思ひます。

△前號の本誌で、家計表の事を書き、大方の投稿を需めた所が、數日の中に十數本迄編輯机上に積み上げられた。一々に拜見するにどうも感心出來ない。趣味がないやうに思はれる。就中『初音の里』『寒生』の如きは頗る丁寧なものを寄せられたが、その餘りに詳細過ぎるのに却て面白からぬ感がしたのである。茲には只其勞を謝して置きます。

△覆面の植村氏に申す。二篇の原稿慥に入手、多謝。

△敢て披露はせぬが、來る新年號には、斬新な方法を以て編輯致します。

『家庭雜誌』の編輯者は讀者諸君並に諸姉が家庭的感想、又はその實況、經驗などの、最も無邪氣に率直に、そして飾りなく筆記したるものを乞ひ受たく思ふ。拜見の上利益あり、興味あり、と認めたものは、それを本誌に餘白に組込み、衆と共に其教訓、其感化を共にする考へである。題を投けると範圍が狹くなるから、面白くないけれど、假に申して見れば、『我夫の職業』『我妻の家政法』『結婚後の生活』『我家』『夫婦の信念と希望』などは差詰の好題目でせう。尤も寄送の原稿は字體を明瞭に書き、一行廿四字詰の割合に願ひたい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●家事經濟と瓦斯コークス
一家經濟の秘訣は日用品の研究にあり

薪炭代用
瓦斯コークス

●無煙無臭にして煙突を要せず代價は正味八貫四百目入 金四十五錢
●煖爐用として尤も德用なり
●臺所竈七輪用として非常經濟なり
●風呂及理髮店湯沸用に至て妙なり
●鍛冶工及石灰製造用として尤好評
販賣御望の方は本社又は下記大賣捌所へ御申込被下度候

東京市神田區錦町三丁目

東京瓦斯株式會社

市内大賣捌所

芝區湊町	杉浦重吉
淺草區橋場町	田中巳之松
深川區猿江町	富野喜七
芝區新堀町	伊東常三郎
芝區金杉橋際	小林吟之助
本所區菊川町	森濱三郎
四谷區新堀江町	みよし
神田區松住町	岡野商店
神田區東龍閑町	大倉龜吉
本所區石原町	猪子銀藏
深川區本村町	横張熊四郎
芝區新堀町	山口春吉
芝區金杉二丁目	石川五郎兵衛
本所區入江町	大澤商店
赤坂區田町七	山田商店

●薪炭の半價以下にして火力は三倍以上を有し火持永く火の元も安全燃料として德用瓦斯コークスに及ぶ者なし●

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月刊 家庭 雜誌

家庭之友

見本 郵券 六錢

第八號要目

我家の樂事
其一……大内青巒
其二……神田佐一郎
其三……山縣五十雄
其四……島田三郎
青梅より(大下藤次郎)臺北より(持地ゑい子)
家庭雜話……矢野次郎
教育費と婚資……寺田勇吉
簡易治療法……井上友子
火傷、しもやけ、ひゞ、寒冒、切傷、打傷、下痢、頭痛、齲歯、胃痛、便秘、百日咳、筋たがひ、
家計豫算表(三種)……田中よね子
育兒問答……井上友子
乳母車の利害、コンデンスミルク割り方、外數件
ぬき糸とつぎもの(横河下枝子) サンタローサの葡萄園より(松岡八郎)
豚料理七種……杉山さと子
活きたる慈善事業○帶一本より娘の墮落

◎定價五錢郵税五厘 一ケ年十二冊前金六拾錢(郵税共)初號より取揃へ註文に應ず

▲初號(五版)二號(四版)三號(三版)四號(三版)五號(再版)六號(再版)七號(三版)

内外出版協會(東京神田區南甲賀町八 電話本局三二四六番)新刊雜誌圖書

加藤眠柳新著

女子立志編

特製 定價 金五拾錢 郵税四錢
並製 定價 金參拾錢 郵税四錢

中央新聞評 歐米に於て最も欽仰すべき女傑名媛十有九名の略傳にて小説家としてストー、エリオット詩人としてブローニング、インジエロー、看護婦としてナイチンゲール慈善家としてはフライの如き其他新聞記者、説教講談家、科學者、著作家美術家、教師、旅行家、仁人等一として婦女百世の龜鑑たらざるはなし其一人の傳を擧ぐるも猶浩瀚なる大册を編成すべきに、流麗の筆能く二百餘頁の小册子に是等諸名媛特異の面貌を縮寫して讀者の眼前に髣髴たらしめし伎倆と勞力は實に多とすべき也著者卷頭に序して「余は本書を草するに當り其人其言其行其德に感激して稿を抱いて漸次潸泣するを禁じ得なかつた」と云ふ以て本書の内容を窺ふべく或程度迄教育を受けし女子家庭の讀物としては多く其比を見ざるの好著なり

(口繪)ナイチンゲールの肖像(アイタトーア)(他一葉)

英國スウェル女史原著(ブラック、ビューティ)

高等師範學校教授 本田增次郎譯(黑馬ものがたり)

驪語

全一册製本優美彩畫挿入 定價八拾錢 郵税六錢

大阪毎日新聞 本書は深く動物愛憐の情を鼓吹したる家庭小説にして、如何にも同情ある書き振りなる健全なる家庭の讀物として絶好のものなるべしと思はる

國民新聞 歐米の讀者界殊に家庭の讀物として知られし『ブラック、ビューテー』を譯したるものにして全篇是れ驪の物語なり。原書が動物愛憐の情を養はしむるに多大の感化あるは是に改めて言はずもあれ、我邦に動物虐待防止會なるもの起りて愈く此種の書の需要を增し文章平易にして婦女子も猶ほ解し易くなりたり

緇音新報 近時驪語は出版界に異彩を放つ好著なり原書は歐洲に於て著名なる讀物たる『ブラック、ビューティ』にして譯者の筆路輕快圓熟に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

堺枯川、幸徳秋水編輯

平民新聞

社會主義の思潮に接し
平民主義の氣焔を見ん
と欲する者は本紙に來れ

▲定價二十部前金六十五錢、五十部前金一圓六十錢、總べて郵稅を要せず

▲見本 ●●●●●●●●●に限り郵券三錢にて送る

▲毎日曜發行 第一號十一月十五日、第三號同二十九日發行

發行所 東京麹町區有樂町三丁目一番地 平民社 電話本局三二六二

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り
（電話 新橋 八一六番 二八〇八番）

飯倉四ッ辻 飯倉支店 電話新橋一五七四番

赤坂表一丁目 赤坂支店 電話新橋二〇六八番

四谷大通り 四谷支店 電話番町五一〇番

牛込神樂坂 神樂坂支店 電話番町六三〇番

本郷一丁目角 本郷支店 電話下谷七二番

神田須田町 須田町支店 電話本局二〇七三番

兩國米澤町 米澤町支店 電話浪花二五九〇番

淺草吾妻橋通 吾妻橋支店 電話下谷七三番

南品川一丁目 品川支店 電話新橋一一三九番

横濱吉田町 横濱支店 電話横濱一三〇四番

日本橋坂本町 代理店 田中銀行 電話浪花二四〇番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大日本軍隊畫帳

陸軍統監部御撮影

本書帖は其事實の正確にして說明の適切なる坐なから軍隊の實況を知ることを得て正に此缺點を補ふに最良無比のものなると又傍ら繪畫は美術思想養成の好材料にして巷間鬻く所の石版畫の比にあらす、乞ふ一本を備へて軍隊の實况を知悉し且つ愛兒教育の資料とし我國固有の美質たる尚武の氣象をして益々旺盛ならしめ以て我國民の天職を盡くし併せて美術思想養成の助具とせられんことを。

石版彩色畫二十二枚說明四十餘頁頗美製本

定價金四拾錢　郵稅不要

卅六年秋季姫路地方 陸軍特別大演習寫眞帳

本帖は今秋播但の野に於て擧行せられたる特別大演習の寫眞帖にして第五、第十、第十一、三師團の精銳分れて東西に對し、兩軍攻防の實况、接戰の狀態悉く之れを陸軍統監部に於て撮影せらる、先つ卷を繙けは味爽粛々兵を進むるあり、兩軍對戰となり、砲列あり、輜重あり、騎兵馳驅するあり、倏ちにして吶喊、忽ちにして接戰、彈丸雨の如く下り、劍戟電の如く光る或は土壘に據りて防戰するあり、或は舟橋を架して襲擊するあり、密集隊となり、散兵隊となる、揚々旭旗を揭げて凱歌を奏するの狀、壯烈快烈、披閱するもの自ら手舞ひ足躍り目親しく之を睹るの感なくんば在らず

全一冊

特別上製　寫眞版印刷圖畫七十餘種　體裁大判頗美製本用紙舶來上等紙小口五十餘枚　正價金參圓　郵稅金拾錢

並製　寫眞銅版印刷圖畫七十餘種　體裁四六倍判大和綴用紙舶來上等紙小口五十餘枚　正價金四十錢　郵稅金八錢

練習艦隊 遠航紀念帖

練習艦隊遠航紀念帖編纂委員御編纂

初春常備艦隊司令長官上村小將閣下が嚴島、松島、橋立の練習艦隊を率ゐて檣頭高く將旗を飜し舳艫相銜みて遠航の途に上るや、到る處士民に敬慕せられ大に我國の威武を發揚せしもの蓋し是れ空前の盛擧にして五千萬同胞の榮譽之れに過ぐるもの莫けん

抑も此の遠洋航海たる二百五十餘日の長きに亘り航程亦壹萬六千浬其の間艦中に於ける諸般の事項、沿道諸港及濠洲各地に於ける歡迎の光景、風土、民情は同長官に於て特に委員を任命して之れが撮影輯錄に從事せしめらる、而して弊社は同委員の命を享け之を製版印刷して數百部を納付せしが本帖の如きは遍く海國人士の紀念ともすべき物なれば曾乞ふて廣く江湖に頒つの榮を得たり

全一冊

大判總クロース表紙金文字入用紙舶來光澤紙小口六十九枚寫眞版挿圖壹百有餘種記事通信文等八十餘頁　正價金貳圓　郵稅金十錢

發行所　東京市京橋區竹川町　共益商社書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社告

本誌第貳號は久しく品切となり第壹號第參號等も殘本僅少となり居りしに依り今般第三版を發行致し何時にても全部取揃へ御注文に應じ得る事と相成ました何卒續々御注文を乞ふ定價は一冊に付六錢宛（郵税を要せず）を申受けます。

●家庭雜誌目錄

▲第壹號（四月三日發行）（三版）

▲本紙の特色▲我輩の根本思想▲動物虐待防止會▲ユトピアの話▲イソプ教訓談▲家庭文庫の必要▲古書新書▲娘の學ぶべき事▲僕にもオバアさんが欲しい（讀切小說）▲倫敦の日本料理▲編輯及發行事情等

▲第二號（五月二日發行）（三版）

▲茨の花（漫吟）▲子なき人に與ふる書▲老人問題▲家庭の消息海豹と人との交（畵入）▲梟の一家族（滑稽畵）▲偶感▲夕日岡園遊會の記▲▲菊坊のお話等

▲第參號（六月二日發行）（三版）

▲新天地（漫吟）▲隅田川邊の好家庭▲ワシントン及其母（肖像）▲鼠の失策（滑稽畵）▲偶感▲讀者の顧問▲樂しき生活▲結婚離婚の統計▲▲天文の話▲家庭の消息▲匆々一筆等

▲第四號（七月二日發行）

▲三つ子の感化力（讀切小說）▲不二彥（肖像）▲柿山伏（狂言）▲猪とクヅ鹿（滑稽畵）▲偶感▲讀者の顧問▲樂しき生活▲加藤邸晩餐會の記▲倫敦雜話等

▲第五號（八月二日發行）

▲子供の導き▲細君の說法▲小猫の生理（畵入）▲新案四頭立犬車（滑稽畵）▲望みと疑ひ▲苦痛と不平▲ウソツキ卯太郎▲▲夫婦の孰れが多く貞實なるか▲世界奇聞▲一口話▲▲「まだ見ぬ親」梗概等

▲第六號（九月二日發行）

▲百年後の新社會（ベラミーの名著ルッキング、バックワードを縮譯して社會主義の理想を具體的に（小說の形にて）示す

▲第七號（十月二日發行）

▲家庭の道德▲結婚に就ての所感▲盆栽に就ての所感▲女皇陛下萬歲▲蟲のはなし▲花と家庭▲倫敦雜話▲長子相續法▲夫に不正の行爲ありたる塲合▲家庭文庫

▲第八號（十一月二日發行）

▲人道主義▲家庭に於ける放縱の辨▲小供名の附け方▲三郎の出世▲ホーム錄▲かくれんぼ▲食事中の時間▲お竹どんの牛乳▲花と家庭▲お伽噺▲衞生の話等

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

少年

第參號

十二月一日發行

記事を撰び繪畫を撰び紙質精良印刷鮮明號を逐ふて益々面白し

世の父兄は少年男女の讀物に注意すべし『少年』は日進文明の智識と品性とを涵養せしむる唯一の雜誌なり全國七十餘の新聞雜誌は『少年』を認めて家庭最好の讀物と爲せり

●第壹號三版●第貳號再版●第一號ゟ取揃御注文に應ず

毎月一日定期刊行 **定價**（前金）一冊十錢、郵稅一錢、六冊分郵稅共六十三錢、十二冊分一圓二十錢、郵券代用（五錢切手以上にて）一割増

發行所 東京市京橋區南鍋町二丁目十二番地 **時事新報社**●**賣捌** 全國各雜誌店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

復刻版 家庭雑誌 全6巻
附／解題・解説・総目次・索引

一九八三年二月二〇日発行
定 価 **四八、〇〇〇円**
発行者 船 橋 治
発行所 不二出版株式会社
〒113 東京都文京区本郷三―一六―六
TEL 〇三(八一二)四四三三／振替東京6―94084

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Berkeley

RETURN TO→ **EAST ASIATIC LIBRARY**
208 Durant Hall 642-2556

LOAN PERIOD 1 **1 MONTH**	2	3
4	5	6

ALL BOOKS MAY BE RECALLED AFTER 7 DAYS

DUE AS STAMPED BELOW

AUG 19 '89		
JUL 12 1989		
Santa Cruz Jitney		
REC'D		
JUL 14 1989		
FAL		

UNIVERSITY OF CALIFORNIA, BERKELEY
FORM NO. DD9, 15m, 12/80 BERKELEY, CA 94720

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

LIBRARY OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA
Berkeley
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA